

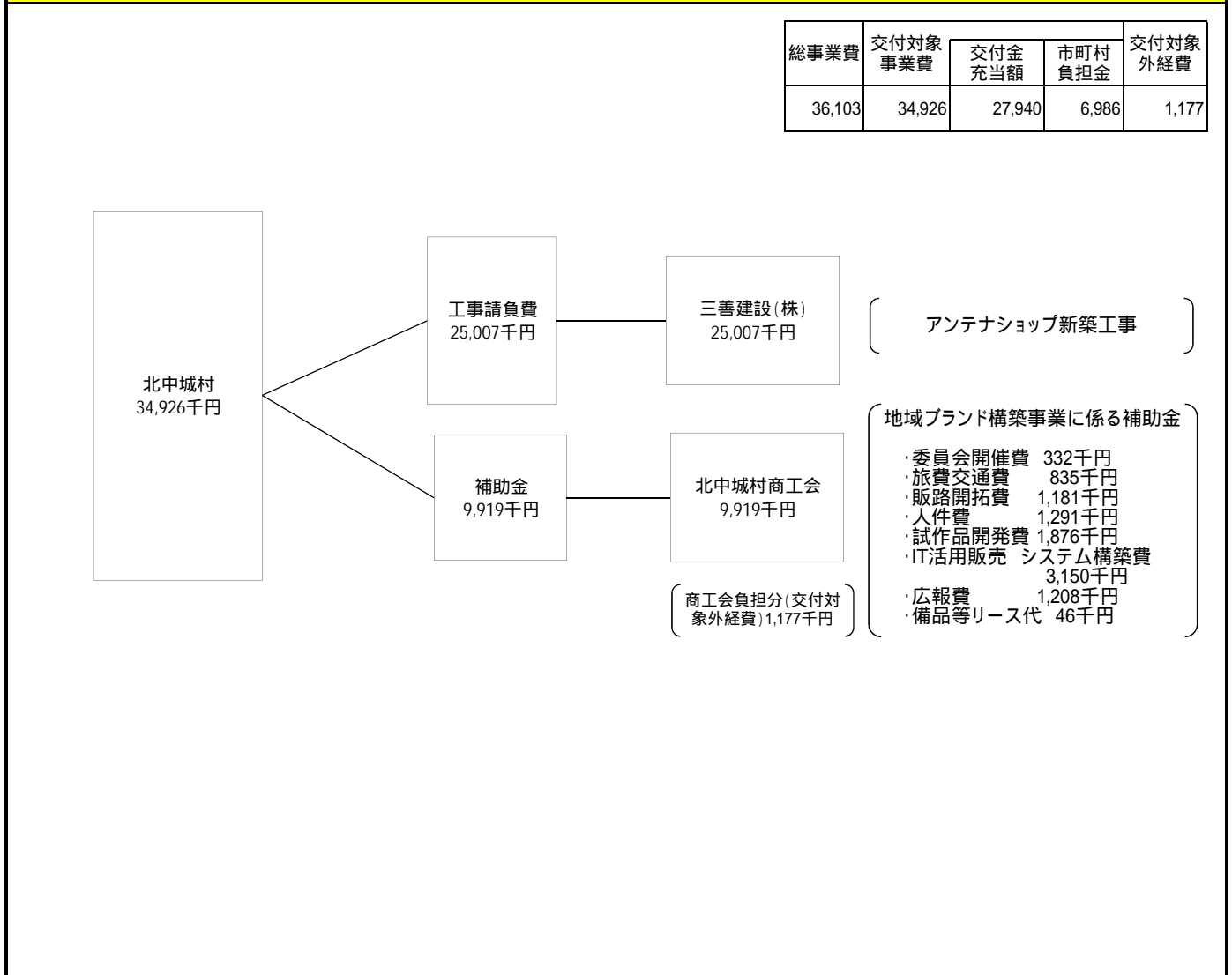
市町村名		北中城村					
平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	地域ブランド構築事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	企画振興課		事業実施(予定)年度	平成24年度～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 -1-(6)
事業内容	産業振興、担い手育成を図ることを目指し、農水産物資源を活かし付加価値を高めるための北中城村独自のブランド化に向けた商品開発を行い、商品選定委員会で選定された特産品の販売拡大や県外物産フェアへの出店を行うとともに、地域特産品販売所(アンテナショップ)の建築工事を行う。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
	予算の状況	(a)当初予算額	35,152	-			
		(b)予算現額	35,152	-			
		(c)増減額(b-a)	0	-			
		(d)繰越額	-	25,232			
		A.計(b+d)	35,152	25,232			
	B.執行済額		9,919	25,007			
	うち交付金充当額		7,935	20,005			
	次年度繰越額		25,232				
	執行率(%) (B/A)		28.2%	99.1%			
予算の状況の説明		地域特産品販売所(アンテナショップ)の工事については、設置場所の選定及び漁業関係者との協議に不測の日数を要し、それによる建物構造の変更に伴う工事期間の延長が生じたことから、25年度へ繰越となった。そのため24年度においては、執行率が低いながらも全体的な事業執行は99.1%で、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・ブランディング推進委員会開催数:4回	目標	(委員会:4回)	()	()	()	
		実績	全体委員会:4回				
	・PR活動回数:2回	目標	(PR活動:2回)	()	()	()	
		実績	PR活動:3回				
	・地域特産品販売所の工事着手	目標	(工事着手)	()	()	()	
実績		工事着手					
達成状況説明	24年度は地域ブランド構築事業の基礎体制づくりとして、村内各組織、事業者等の情報共有体制の整備を進め、北中城村ブランディング委員会(6人)を設置、委員会4回、ワーキング委員会3回を実施した。具体的な取り組みとして、観光マッチング事業(福岡・大分)へ参加し、今後のプロモーションについての指標となった。東京においては村の特産品であるアーサの販路の可能性についてサミットストアにて試食販売を行い、専門家(マーケティングフォースジャパン)アドバイスも受けることができた。また、沖縄県産品の売れ筋状況を知るため、銀座わしたショップ、観光PRのためにOCVB東京事務所へも行くことができ、次の展開への活路が見られた。年度の仕上げとして行われたシンポジウムにおいては村民へ事業の成果説明と今後の期待について声を聞くことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	・地域特産品販売所の工事着手	目標	()	(工事着手)	()	()	()
		実績		工事着手			
	・PR活動回数:2回	目標	()	(PR活動:2回)	()	()	()
		実績		PR活動:3回			
	進捗状況説明	特産品販売所の着工については、当初考えていた構造(プレハブ設置)では台風の襲来に堪えられない可能性があり、建物構造仕様の変更を検討、また、敷地の有効活用のために設置位置、敷地面積の変更が必要となり、見直し相当期間を考慮して翌年度へ繰り越した。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>農業・水産業・商業など、各分野の会員を有する商工会を中心に事業を展開したことがよい効果が出ている。事業の委員については基礎体制づくりを意識して各分野からの委員を選出し、23年度に行われた商工会独自の調査によって得られた村民の意識調査、地域ブランドへの基礎調査によって得られた「健康・元気・長寿」という北中城村民の潜在的イメージをキーワードとして展開することを確認できた。商品開発については生産拠点産地であるアサを中心に展開しようと進めているが、単価の高さや知名度、賞味期限などのハードルがあることが確認できた。また、モノである商品だけでなく、場所、人、空間の観光についても商品化することの検討を進めるとしてきたが、窓口の不備や中心となる機関の必要性が浮かんでいる。シンポジウムなど住民意識調査においては観光の可能性について期待が高まっていることがわかった。</p>	<p>本事業については村の様々なものをブランド化していく取組みであるため、農業者、漁業者、商業者の連携が非常に大切であり、それを取りまとめる人、あるいは場所が必要となることから、特産品販売所の開設はキーポイントとなる。また、販売所への生産等の情報集約により、大口(給食センター・病院・老人ホーム等)の販路拡大が産業の活性化に期待でき、行政との情報共有で一層効率的な事業にする必要がある。</p>

今後の取り組み方針

- ・地域特産品販売所を設置し、販路拡大、活性化につなげる。
- ・地域ブランドのイメージを統一するためのロゴの開発を進める。
- ・観光商品の開発を進める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目 ・ 点 検 評 価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・各産業分野が加入する商工会自らが地域活性化に手を挙げており、商工会を中心とすることで地域事業者が安心して事業に関わることができることから、活性化に対する補助とした。 ・予算等は計画に沿って支出されており、規模も見合っている。 ・受益者負担も10%以上あり、妥当である。 ・使途も目的に即しており、必要なものとなっている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 北中城村

平成24年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5-	再資源化ストックヤード等整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア
担当部課名	生活環境課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	3Rの推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(6)

事業内容 循環型農法の推進とともに、焼却回避によるゴミ減量化を目指し、青草、伐採木の堆肥化・再資源化を図るためのストックヤード整備、伐採木等のチップ処理機械を導入する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	97,110	-		
		(b)予算現額	108,478	-		
		(c)増減額(b-a)	11,368	-		
		(d)繰越額	-	26,208		
		A.計(b+d)	108,478	26,208		
	B.執行済額		56,080	26,047		
	うち交付金充当額		44,864	20,837		
	次年度繰越額		26,208			
	執行率(%) (B/A)		51.7%	99.4%		
	予算の状況の説明		ストックヤード建築については、地権者との用地交渉(価格交渉)が難航したことより、工事の施行が遅延したため、24年度への繰越となったため、24年度においては、執行率が低いが青草・伐採木チップ化のためのチェーンソー、薪割機、樹木破砕機、ホイールローダー、ふるい機の備品購入と実施測量設計については、計画的な予算執行に努め、業務を遂行することができた。			

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		目標 ・車両購入(1トラック、軽トラック2台) ・機械備品購入(チェーンソー、薪割機、樹木破砕機、ホイールローダー、ふるい機)	実績 ・車両購入(1トラック、軽トラック2台) ・機械備品購入(チェーンソー、薪割機、樹木破砕機、ホイールローダー、ふるい機)	()	()	()
目標 ・用地購入(5筆、3031.76㎡) ・実施調査測量設計書	実績 ・用地購入(5筆、3031.76㎡) ・実施調査測量設計書	()	()	()	()	
達成状況説明	平成24年度においては、車両・機械購入、用地購入、実施調査測量設計を実施。平成25年度において造成・建築工事を行い、青草・伐採木等の植物ゴミの再資源化促進の環境が整った。					

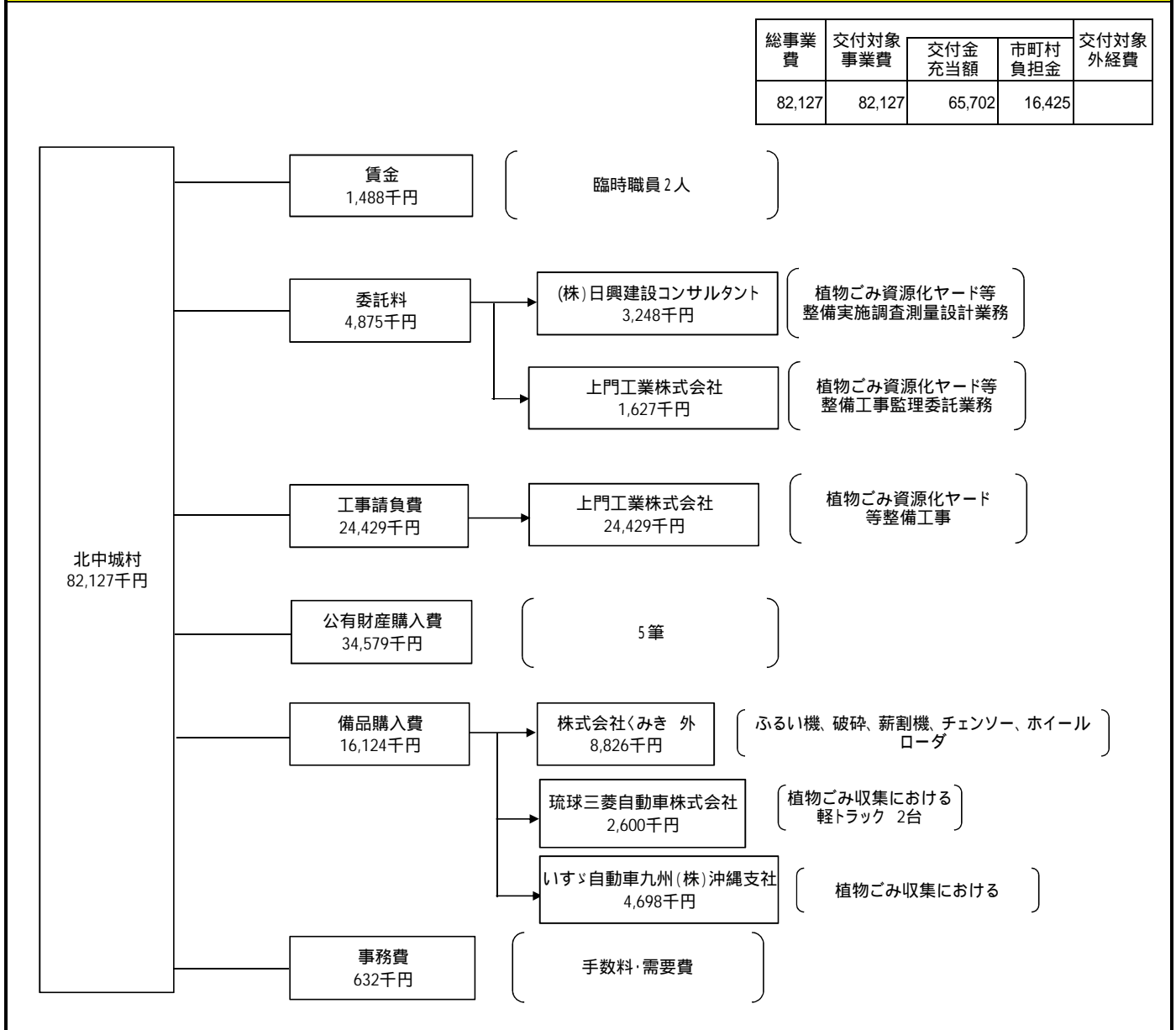
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			目標 ・車両、機械の導入 ・用地購入率:100% ・実施調査測量設計書の作成	()	()	()	()
	実績 ・車両、機械の導入 ・用地購入率:100% ・実施調査測量設計書の作成	()	()	()	()	()	
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
	進捗状況説明	・車両・機械購入と整備対象の用地購入を100%実施し、平成25年12月から再資源化ストックヤードを稼働させることができた。 ・本施設稼働前からストックしていた植物ゴミについて、約10tを再資源化することができ、わずかではあるが、焼却回避によるゴミ減量化に取り組むことができた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・再資源化用機械類(チェーンソー、薪割機、樹木破碎機、ホイールローダ、ふるい機)の使用について、危険を伴う作業となることから、機械取扱い、作業工程の徹底等に行い、安全な施設運用に努める必要がある。 ・未だに野焼きによる周辺住民からの苦情等があることから、青草及び伐採木について、本施設への利用周知の取り組みを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本施設の作業員の安全衛生向上のため、機械取扱い・定期メンテナンス講習を行うとともに、同様の機械を導入している市町村の視察等を実施するとともに、緊急時等の連絡体制の強化に取り組む。 ・再資源化(チップ化)の工程や、再資源化による効果を住民に知ってもらうための広報活動を行うとともに、野焼き防止のパトロール等を実施し、本施設利用促進を図る。

今後の取り組み方針

平成26年度において、再資源化された堆肥を試験的使用(農業利用・植栽帯利用等)を実施し、平成27年度以降に堆肥販売へつなげるとともに、引き続き植物ゴミ焼却堆肥のためのゴミ減量化に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務、工事請負業者について、指名競争入札を経て契約しており妥当であったと考える。 ・費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なもの等について、額の確定時において支出に関する書類を確認の結果、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	7-	公共施設等エコアクション推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)
担当部課名	企画振興課	事業実施(予定)年度	平成24年度～28年度	地球温暖化防止対策の推進
			沖縄振興基本方針該当箇所	7-

事業内容
 北中城村全体でCO2削減に向けたエコアクションの先駆けとして、公共施設においてクリーンエネルギー（太陽光）の先行導入と照明機器等の省エネルギー化のためのLEDへの切り替え、電気自動車の導入を行う。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）

		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	66,792	-			
	(b)予算現額	66,792	-			
	(c)増減額(b-a)	0	-			
	(d)繰越額	-	56,851			
	A.計(b+d)	66,792	56,851			
	B.執行済額	9,941	29,394			
	うち交付金充当額	7,953	23,515			
	次年度繰越額	56,851				
	執行率(%) (B/A)	14.9%	51.7%			
予算の状況の説明	太陽発電システムについては、設計に祭り、荷重量や耐風圧など専門家からアドバイスを受け、そのため設計にも不測の日数を要した。また、LED設置工事については、資材が不足し今年度中の施工が困難となったため、次年度へ繰越した。そのため、24年度においては、執行率が低く留まっているものの計画的に予算執行に努め、業務を遂行した。					

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		エコカーの導入数:2台	目標 (エコカーの導入数 2台) 実績 エコカーの導入数 2台			
太陽光設置工事の実施(2カ所)	目標 太陽光設置工事の実施(2カ所) 実績 太陽光設置工事の実施(2カ所)					
達成状況説明	役場第2庁舎及び渡口公民館へ太陽光システムを設置するとともに、役場第2庁舎のLED蛍光灯等への切り替え、エコカーの導入(2台)を行い、村全体でのCO2削減に向けたエコアクションの取り組みの先駆的事業として取り組むことができた。					

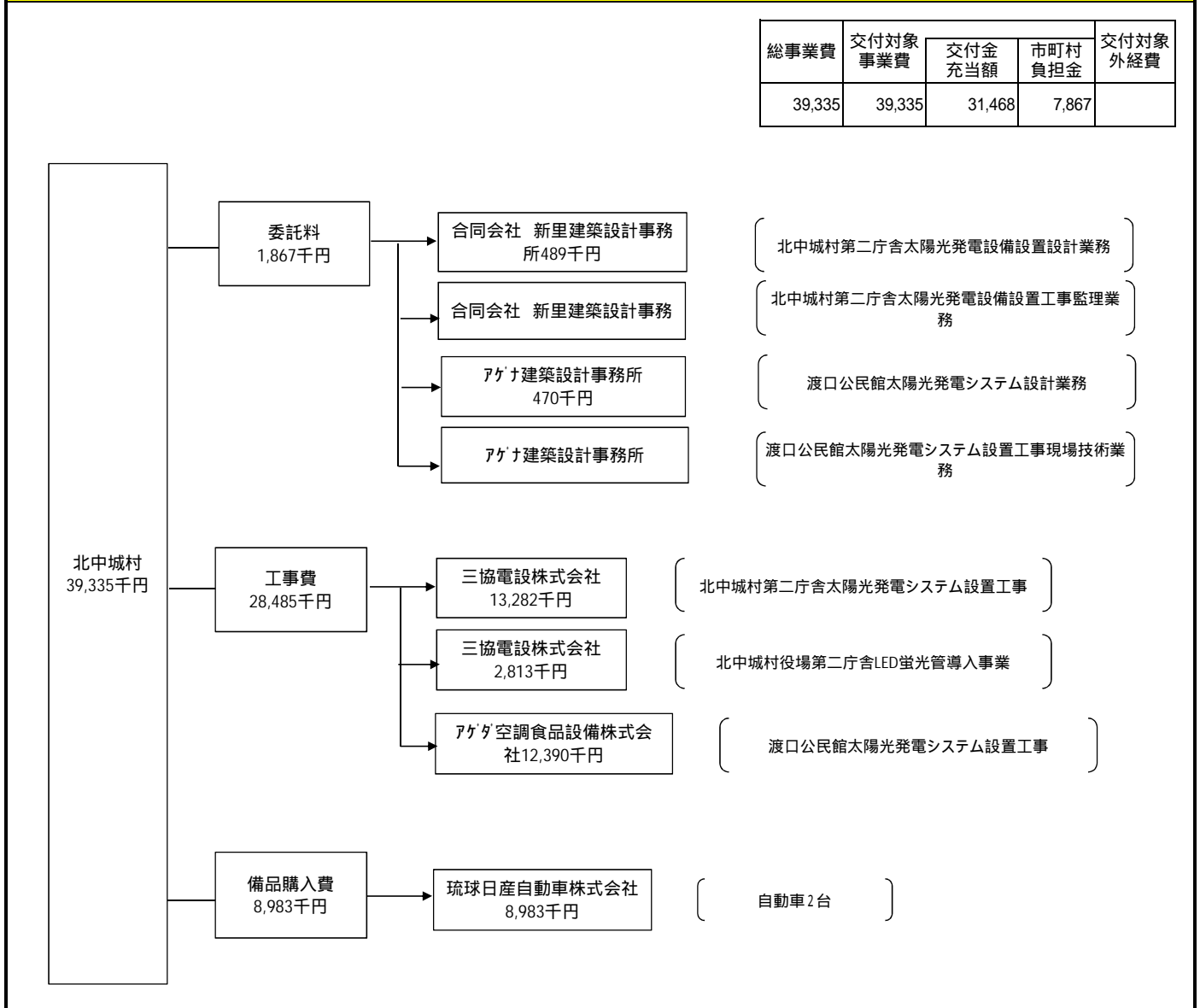
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		エコカーの導入数:2台	目標 ()	(エコカーの導入数2台)	()	()
		実績	エコカーの導入数2台			
	太陽光設置工事の実施(2カ所)	目標 ()	(太陽光設置工事の実施(2カ所))	()	()	()
		実績	太陽光設置工事の実施(2カ所)			
進捗状況説明	公共施設等への太陽光発電システム、LED蛍光灯切替え、エコカーの導入を行い、今後の環境意識向上の広告塔となる取り組みを行うことができたが、次年度以降のソフト事業・ハード事業を推進していくため、エコアクションプログラム(実施計画)を策定し、環境負荷低減に向けた更なる環境意識向上の促進に取り組んで行く。					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>本村におけるクリーンエネルギー導入促進を図るため、先行して役場庁舎及び渡口公民館に太陽光発電システムを導入したが、その発電量やCO2削減量などの効果を住民へ広報し、更なる環境意識向上を図る必要がある。現在は、各施設それぞれでモニターによる効果表示となっていることから、役場庁舎などで、各施設の状態をより多くの住民に広報できる連携システムの構築が必要と考える。</p> <p>公共施設等への太陽光発電システムの導入については、役場庁舎を始め各地区公民館へ年次的に導入を図っていくが、発電量及びCO2削減量などの効果について、全ての施設の「見える化」と「情報集約」を行うため、地域イントラネットを活用できるか、またはWi-Fiを新設して活用してのかが検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

本村における行動目標となるアクションプログラムを策定し、村全体の環境負荷の低減の意識向上を促すとともに、継続して公民館等公共施設での太陽光設置を実施することにより、CO2削減に向けた取組み及び一般家庭への太陽光発電システム普及活動を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	事業者選定はエコカー購入以外は入札で行っており、妥当と考えている。エコカー導入も電気自動車は1事業者しか扱っていない為、随意契約により業者選定を行なったが妥当と考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費用・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	北中城村
------	------

平成24年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	-1	一時預り室整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ
担当部課名	福祉課	事業実施(予定)年度	平成24年度～25年度	地域における子育て支援の充実
			沖縄振興基本方針該当箇所	4

事業内容
 本村の公立保育所2園のうち1園は、ニーズの高い一時預かり保育について、預かる環境が充分でないため、その対応のため保育室の増築工事を行う。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

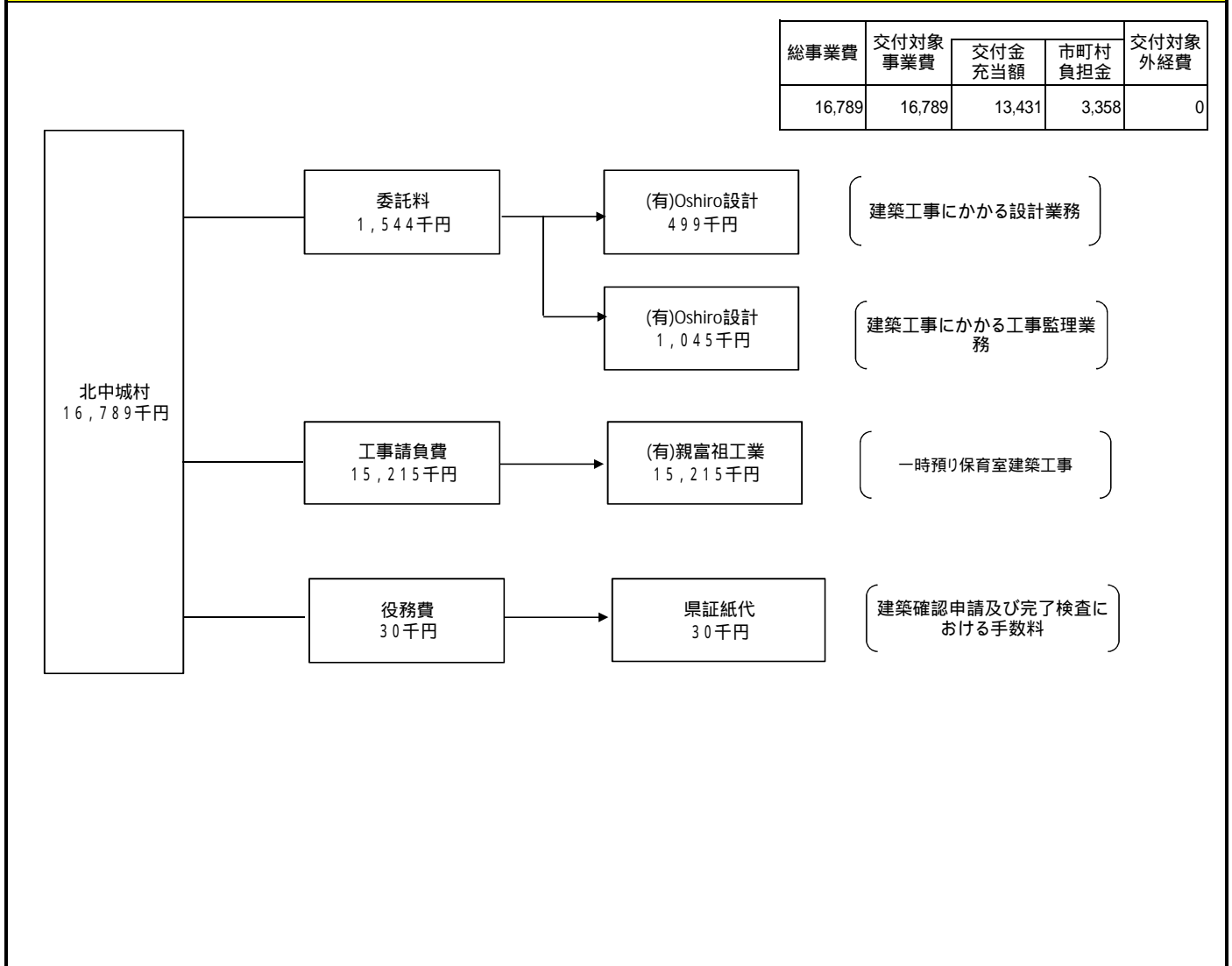
		24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	9,080	-			
	(b)予算現額	16,730	-			
	(c)増減額(b-a)	7,650	59			
	(d)繰越額	-	16,217			
	A.計(b+d)	16,730	16,276			
	B.執行済額	513	16,276			
	うち交付金充当額	410	13,431			
	次年度繰越額	16,217	-			
	執行率(%) (B/A)	3.1%	100.0%			
	予算の状況の説明	一時預かり室増築については、構造変更による工事期間の変更と、保育所現場との協議と周辺地権者の理解を得ることに時間を要したことから25年度へ繰越することになった。そのため24年度においては、執行率が低いながらも全体的な事業執行は96.8%で、計画的な予算執行に努め、業務を遂行した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		・保育室の増築工事の着手 ・整備面積:45㎡	目標 ・保育室の増築工事の着手 ・整備面積:45㎡	()	()	()
	実績	()	()	()	()	
	目標	()	()	()	()	
	実績					
達成状況説明	平成24年度に実施設計を行い、建築工事の予算を繰り越して増築工事を行った。 引渡し後(平成26年3月中旬)の約2週間で、延べ18名の一時預かり保育を実施することができた。					

成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
			目標	()	()	()	()	
			実績		・保育室の増築工事の着手 ・整備面積:45㎡			
			[参考指標]	目標	()	()	()	()
			実績					
進捗状況説明	就労・就学の支援、病気・妊娠等の緊急時における未就園児の預かり保育(公立保育所)を実施できる環境が整い、更なる保育ニーズに応えることができた。							

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>一時預かり保育の実施において、保護者の一時預り保育へのニーズが多様化しているため、保護者のニーズに合わせた受け入れを実施する必要がある。また、村の拠点保育所としての一時預り保育事業として地域の子育て支援へ対応する必要がある。</p>	<p>一時預かり保育の制度周知とともに、一時預かり保育を希望する者を保育の実施に関する基準及び安全性を確保できる範囲内で受け入れることができるよう受入人員及び優先順位の調整と受け入れる際の職員体制を確保する。また、子育て支援センター及び関係機関との連携を図る必要がある。</p>
今後の取り組み方針		
<p>・一時預かり保育制度の周知を行うとともに、利用者との連絡を密にし、一時預かり保育を希望する者を受け入れることができるよう調整していく。 ・未就園児の検診事後教室において、集団保育が必要とされた幼児を一時預かり保育において実施できるよう調整していく。</p>		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の流れ 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・工事管理業務及び建築工事の施行業者の入札を実施し、選定方法は妥当であるとする。 ・費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		